

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園番号	
園名	東京都北区立浮間保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

当園は、園庭や周辺地域に四季折々の木々が豊かに生い茂る自然環境に位置しており、近隣には土手や浮間公園といった自然豊かな公共スペースもあり、子どもたちが日常的に多様な自然事象に触れる機会が多い環境である。春夏には虫取りをして観察をしたり、草花を摘んだり、秋には近隣の公園でどんぐり拾いをしたりして遊びの中で自然に触れている。その環境の中で様々な疑問や発見を見つけていたり、探求心を深めたりしていきたいため。

2. 活動スケジュール

4月～

- ・園庭や散歩先で春の自然（虫、草花）に触れ、生き物や植物への好奇心を育む。
- ・図鑑で調べたり、発見マップを作成したり、「もっと知りたい」という探究心を育む。

6月～9月

- ・草花や葉から色が出る不思議を感じ、自分なりに「色を作る」という実験・探究を楽しむ。
- ・色を混ぜる、濃淡を変える、量を変えるなど、試行錯誤（失敗・成功）を経験して学ぶ。

3. 探究活動の実践

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】

- ・花、野菜、果実、葉、木の実など
- ・ジップロック、すりこぎ器・すり棒、棒、おろし器、セリーカップ、スポット、キッチンペーパー、コーヒーフィルターなど

【環境構成】

- ・子どもたちの気づきや発見を整理できるよう、「素材」「抽出方法」「結果（色が出たか・出なかったか）」を一目で確認できる記録表を用意した。
- ・一覧表を掲示し、自分たちの経験を振り返ったり友達と比較したりできる環境を整えた。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

- ・家庭から持参した野菜、給食の調理過程で出た野菜や果物の皮、そして園庭で見つけた自然物を素材として活用し、色水作りを行った。花や実など「〇〇色が出るかもしれない」と予想した素材を種類ごとにトレイへ準備し、揉む・すりつぶす・叩く・煮出すといった様々な手法を用いて、素材に合った色の抽出方法を模索した。
- ・紫キャベツやビーツを煮だした時の色やそこに酢を入れた時の還元反応を見せ、新しい色だし方法があることを紹介した。
- ・試行錯誤を繰り返す中で、「ピーマンの赤と黄色は出るのに、なんで緑は色が出ないのかな?」と疑問を持ったり、「水を入れすぎると色が薄くなるから気をつけて」と教え合ったりする姿が見られた。思い通りの色が出た喜びだけでなく、想像と異なる結果になった際にも、それを新たな発見として受け止め、子ども同士で経験を共有しながら次への意欲や探究心につなげていた。



4. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・さまざまな自然物や道具を使い、自ら試行錯誤することで、『うまくできた』『色が出なかった』『想像した色とは異なっていた』など、子ども自身が多くのことを見えていた。自分で素材を選び、時には失敗を経験したからこそ、次への意欲や探究心につながったのではないかと感じている。また、食材を使用する中で『もったいない』という声や、『混ぜたらどうなるか』という疑問も聞かれた。今後は、子どもの興味に合わせて食材の使用や混色の実験などを行っていきたい。